

主体的・対話的で深い学び
をGIGA端末の活用を通し
て実現する指導の工夫
～生徒の思考のプロセスを
見える化する授業づくり～

令和5年3月

東大和市立第五中学校

目 次

目 次	1
1 はじめに	2
2 研究方法	2
3 教科	
国 語	4
社 会	5
数 学	6
理 科	7
音 楽	8
美 術	9
保健体育	10
技術・家庭	11
外国語（英語）	12
特別支援学級	13
4 成 果	14
5 課 題	16
6 資 料	18
学習指導案（国語）	19
学習指導案（社会）	20
学習指導案（数学）	28
学習指導案（理科）	32
学習指導案（保健体育）	33
学習指導案（外国語（英語））	39
学習指導案（特別支援学級）	40
参考資料	42

1 はじめに

令和3年度東大和市教育課題研究指定校として「1人1台のコンピュータなどのICTを効果的に活用した主体的・対話的で深い学びにつながる授業改善」を主題として研究を行った。その時の課題を踏まえ、令和4年度の研究を行った。

(1) 令和3年度の研究結果

令和3年度の結果は次の3点だった。

ア GIGA端末の良さ、紙の良さがそれぞれあること。GIGA端末の良さは映像を共有できること、紙の良さは思考過程を書くことができることだった。

イ 本校として、文房具として使うことを達成した。

ウ 文献研究の中で、紙面による反射光は文字として、画面による透過光は映像として認識するとカナダのマーシャル・マクルーハン教授が20年ほど前に執筆していることを見つけた。

(2) 令和4年度の主題と副題

これらのことから、生徒はどのように思考を深めているのかといった課題が出てきた。一般化できれば再現性があり、どこの学校でも校種や地域に関係なくできる可能性があるのではないか。このことを令和4年度の研究主題「主体的・対話的で深い学びをGIGA端末の活用を通して実現する指導の工夫」とした。また副題を「～生徒の思考のプロセスを見える化する授業づくり～」とした。なお、東大和市教育委員会ではGIGA端末を1人1台端末という呼称で呼んでいる。研究では、昨年度から継続している流れを踏まえ、GIGA端末という名称で統一した。

2 研究方法

研究方法は4点である。

(1) 研究時間の設定

年間で研究時間を20時間設定し、GIGA端末と呼称の整合性を取り、GIGAタイムと呼ぶことにした。出張や職員会議の影響を受けない木曜日の6時間目を主に設定した。

(2) 研究時間の確保

20時間を確保するために、夏季休業期間を5日間短縮し、30時間程度の時間を確保した。東大和市教育委員会の了承の元進めるとともに、働き方改革を行いながら同時進行で研究を進めた。

(3) 研究の日程

ア 研究授業は、実践研究として1学級で実施し、他の教員で授業観察を行う。

イ 研究協議は、次の週のGIGAタイムまたは校内研究日に行う(表1)。

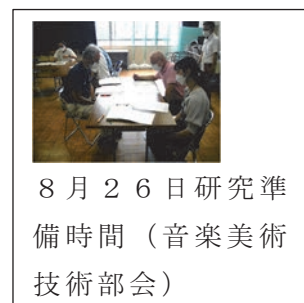
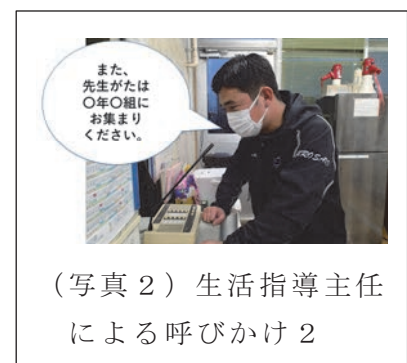
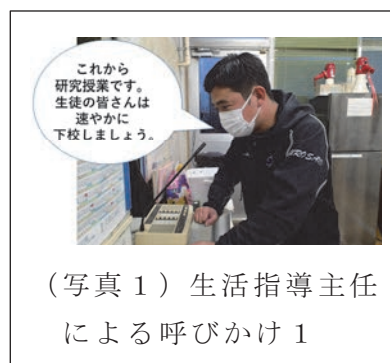
ウ 7教科で研究授業を行う。教科の設定には、順序性がある。最もGIGA端末を活用しやすい理科から始まり、社会、数学、保健体育、国語、特別支援学級、外国語(英語)の順である。全ての研究授業で指導案の略案を作成し、略案を見ながら、参観する。新型コロナウイルス感染症予防から、教室内の扇風機による教室換気、窓の開放による教室換気、手指消毒等徹底して行った上研究授業を行う。

回	月	日	曜	校時	内 容
校内研究日	4	5	火		・本年度の概要説明
第1回	4	21	木	6	・本年度の概要説明
第2回	5	12	木	6	・各教科等毎の課題の振り返り
第3回	6	9	木	6	・課題に対する改善案の検討
第4回	6	23	木	6	・研究授業準備
校内研究日	6	27	月	6	・研究授業準備
校内研究日	7	11	月	6	・研究授業準備
校内研究日	8	26	金	5	・研究授業準備
第5回	9	1	木	6	・研究授業1（理科）
第6回	9	15	木	6	・研究授業1の研究協議会
第7回	10	6	木	6	・研究授業2・3（社会・数学）
第8回	10	27	木	6	・研究授業2・3の研究協議会
第9回	11	10	木	6	・研究授業4（保健体育）
校内研究日	11	16	水	6	・研究授業4の研究協議会
第10回	11	24	木	6	・研究授業5（国語）
第11回	12	1	木	6	・研究授業5の研究協議会
第12回	1	12	木	6	・研究授業6（特別支援学級）
校内研究日	1	23	月	6	・研究授業6の研究協議会
第13回	1	26	木	6	・研究授業7（外国語＜英語＞）
第14回	2	9	木	6	・研究授業7の研究協議会
第15回	2	16	木	6	・今年度の研究のまとめ&来年度の研究の展望

表1 令和4年度GIGAタイム計画

(4) 校内体制の確立

研究授業時には生活指導主任による呼びかけをおこなう(写真1・2)。「これから研究授業です。生徒の皆さんは速やかに下校しましょう。」「また、先生がたは〇年〇組にお集まりください。」とした。



3 教科

国語

1 令和3年度の課題

- (1) 生徒のタイピング入力速度が上がらず、意見の記入などに時間がかかった。
- (2) 従来 of 指導法により授業を展開し、GIGA 端末の可能性を見失いかねなかった。

2 令和4年度の改善

- (1) 文字入力の方法を、手書き入力・フリック入力・タイピング入力を選べるようにした。また、生徒は昨年度よりもタイピング入力速度の向上があり、GIGA 端末を使用し続けることによるスキルの習得があった。
- (2) 言葉そのものを扱う国語ならではの難しさがある。言葉は書くことにより習得できる部分が多い。また、全ての教科の中で唯一、縦書きの教科であり本文を黒板やモニターに投影した時、文章が入りきらない。従来から行なわれている資料提示といった活用以外を模索し、研究した結果、次の研究授業を実践した。

3 実践研究

(1) 単元名と目標

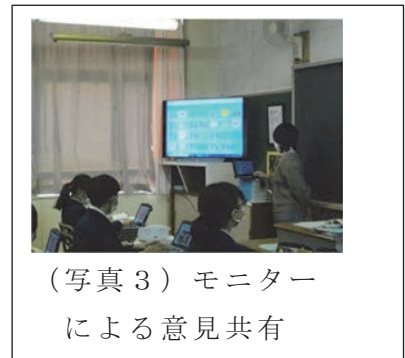
単元名を「魅力を効果的に伝えよう」とし、魅力を効果的に伝える文章の書き方を説明できることを目標とした。(p.19 学習指導略案掲載)

(2) 研究授業

金閣寺と紅葉の写真を教員機から生徒機へ一斉送信し(写真1)、付箋紙を貼るように(写真2)魅力、特徴、感じたこと書かせた。それを送信させ、モニターによる共有を行った。魅力「真っ赤な紅葉」、特徴「池に反射する金閣寺」、感じたこと「池に魚の跳ねた波紋がありそう」(写真2)などとある。



(写真1) 研究授業



4 成果

具体的な表現をしているか、魅力・特徴・感じたことと文章を分けながら伝えているか、文章をどのように組み立てているかにより思考を見とることができた。また、教材の工夫も必要である。本時の研究授業の場合は抽象的な教材を提示することにより、多様な意見を集めることができるため、授業の広がりがあることを研究協議会で共有した。

5 課題

今後の課題は、言葉による見方・考え方を働かせ資質・能力を育成することである。(言葉による見方・考え方)

自分の思いや考えを深めるため、対象と言葉、言葉と言葉の関係を、言葉の意味、働き、使い方等に注目して捉え、その関係を問い直して意味付けること。

社会

1 令和3年度の課題

- (1)「まなびポケット」の起動に時間がかかることや、G I G A 端末の立ち上がりが遅い。
- (2)G I G A 端末による意見集約が難しく、即座に意見を振り返ることができなかった。

2 令和4年度の改善

- (1) 授業前からG I G A 端末を立ち上げておき、起動時間の短縮をおこなった。社会科係が休み時間に呼びかけることを徹底した。
- (2) I C T 支援員にお願いをし、Forms を利用した生徒の意見をエクセルでまとめられるシステムを作ってもらった。即材に意見を振り返ることができ、授業展開の早さにつながった。

3 実践研究

(1) 単元名と目標

単元名を「民主政治と政治参加」とし、市長として立候補した場合、マニフェストを考えることを目標とした。(p.20 学習指導案掲載)

(2) 研究授業

G I G A 端末を使用し、Forms に意見を書かせ、個人、班、学級全体で共有させた。
(写真1・2・3) 民主政治について多面的・多角的に考察させ主権者としての自覚を深めさせた。



(写真1) 研究授業



(写真2) G I G A 端末による個人意見(班)



(写真3) モニターと黒板併用による意見集約

4 成果

思考の深まりは3段階必要であり、見とることができた。GIGA 端末を用いて個人の思考を深めること、次に班で友人の思考を共有化した。この授業ではワークシートとプロジェクターを併用している。反射光と透過光の利用である。最後に発表をさせ、聞くことにより思考の深まりを見ることができた。

本時の研究授業は、班の中で友人と話をすることで思考が見える化したといえる。社会人基礎力と言われるコミュニケーション能力が大切であるとあらためて気づかされた研究授業となった。

5 課題

今後の課題は、現代社会の見方・考え方を働かせ資質・能力を育成することである。
(現代社会の見方・考え方)

社会的事象を、時期、推移等に注目して捉え、類似や差異等を明確にしたり、事象同士を因果関係などで関連づけたりすること。

数学

1 令和3年度の課題

- (1) GIGA 端末活用時に時間がかかる上、ソフト活用時に説明に時間がかかる。
- (2) 思考過程を GIGA 端末で見取ることはできず、紙と鉛筆に勝る学習方法が見当たらない。

2 令和4年度の改善

- (1) 各教科で頻繁に使用するようにし、普段から G I G A 端末の活用を意識した授業を展開した。
- (2) 思考過程が重視される教科である。特に証明問題では顕著である。そのため、動点や図形についての活用を研究し、数学ソフト「GRAPES」利用し視覚的に関数に触れさせることを試みた。

3 実践研究

(1) 単元名と目標

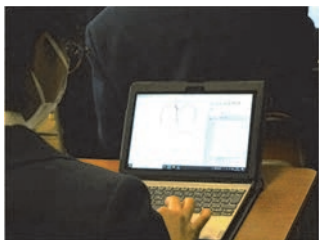
単元名を「1次関数のグラフ」とし、ハートをグラフで書くことを目標とした。
(p.28 学習指導略案掲載)

(2) 研究授業

前時では、富士山を数式で描いている。本時は様々な関数に触れさせ、一次関数のグラフの特徴を捉えさせた。変域についても理解させることとした。 $r = 1 + \cos 3\theta$ なども発展的内容として扱い、ハートを作成させた(写真1・2)。スクリーンショットを利用し、学びポケット提出箱に生徒1人1人提出をさせ、モニターで確認をした(写真3)。



(写真1) 研究授業



(写真2) G I G A 端末
によるハート作成



(写真3) 生徒作成ハート
表示し確認

4 成果

中学校の数学は必ず正解がある。正解を見ることで思考が正しいと判断することが可能な唯一の教科である。ハートが完成することで思考を見とることができた。また、友人に教えることで思考は深まることが言われており、授業内で教えることで思考を深める取り組みをしている。学び合いについても一定の効果が出ている。

5 課題

今後の課題は、数学的な見方・考え方を働かせ資質・能力を育成することである。
(数学的な見方・考え方)

事象を、数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え、論理的、統合的・発展的に考えること。

理科

1 令和3年度の課題

- (1) 教員が、GIGA端末の導入当初、アプリケーション・ソフトウェアの操作を生徒に指導しなければならず、教科の指導時間が減少してしまった。
- (2) 生徒のコンピュータ・リテラシーに個人差があり、作業時間の差が生じた。

2 令和4年度の改善

- (1) 粒子領域で、原子を画面上で動かしながら学べる教材をつくり活用した。生徒の学習活動の充実につながった。
- (2) 昨年度、1年間使用し続けたことにより個人差はなくなりつつある。また、校内機器担当による使用方法の周知、教員がGIGA端末利用に慣れたこともあり教科を超えて作業時間の短縮につながっている。

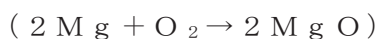
3 実践研究

(1) 単元名と目標

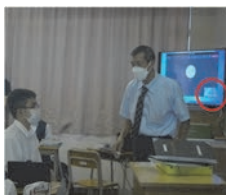
単元名を「原子」とし、化学反応式のつくり方を理解することを目標とした。
(p.32 学習指導略案掲載)

(2) 研究授業

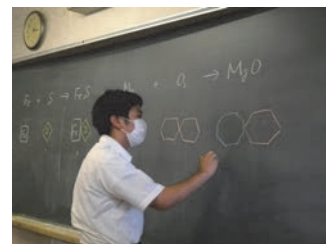
Teamsからワード文章(ワークシート)をダウンロードさせた。化学反応式をワード文章(ワークシート)上の鉛筆と消しゴムの組み合わせにより思考させた。



(写真1) 研究授業



(写真2) モニターによる共有と同時配信(赤丸内)



(写真3) 黒板による考えの適用

4 成果

思考の深まりは3段階である。GIGA端末を用いて個人の思考を深めること(写真1)、次にモニターで友人の思考を共有すること、最後に黒板により考えを適用させ(写真3)、深めることができた。モニターでは、自宅で学習している生徒へ同時配信も行った(写真2の赤丸内)。透過光と反射光を活用するとともに、デジタルとリアルの併用が必要であることにもつながった。

5 課題

今後の課題は、理科の見方・考え方を働かせ資質・能力を育成することである。

(理科の見方・考え方)

自然の事物・現象を、質的・量的な関係や時間的・空間的な関係などの科学的な視点で捉え、比較したり、関係付けたりするなどの科学的に探究する方法を用いて考えること。

音楽

1 令和3年度の課題

鑑賞の活動でイヤホンが無く、生徒のG I G A端末で再生した音源が干渉しあい、聴き取れなかった。

2 令和4年度の改善

1人1人にヘッドホンを配布し、聴くことができるようにした。その結果、生徒が聴きたいところを重点的に聴くことができ、音も交わずに集中して鑑賞の活動に取り組むことができた。

3 実践研究

音楽はG I G Aタイム内の研究授業を設定していないため、昨年度の研究と今年度の流れを踏まえ実践研究を行った。

(1) 歌唱の活動

10月実施の合唱コンクールに向けて実践を行った。「協働的に意見を交わしながら表現を身につけよう」とホワイトボードに示しながら(写真1)歌唱の活動を行った。歌唱(パート練習)の前に話し合いを行い、パート練習を行った。(写真2)。

(2) 器楽の活動

和楽器(箏)の活動を行った。伝統音楽のよさを味わい、愛着をもつことができるよう奏法だけではなく、展開部分において曲や歴史についても触れた。

歌唱の活動、器楽の活動共にG I G A端末の録画・再生機能を用いた。



(写真1)「協働的に意見を交わしながら表現を身につけよう」



(写真2)歌唱(パート練習)の前に話し合い



(写真3)和楽器(箏)

4 成果

歌唱の活動では、音階や言葉などの特徴、音のつながり方の特徴についてイメージと関わらせて理解することができた。器楽の活動では、必要な奏法、身体の使い方などの技能の向上があった。音楽は歌唱や演奏により表現する唯一の教科である。G I G A端末の活用のほか、音や言葉によるコミュニケーションが思考には欠かせないことを見ることができた。音楽という教科の専門性について改めて気づくこととなった。

5 課題

今後の課題は、音楽的な見方・考え方を働かせ資質・能力を育成することである。

(音楽的な見方・考え方)

音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形作っている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、生活や社会、伝統や文化などに関連付けること。

美術

1 令和3年度の課題

- (1) 美術の学びに関わる経験値が少ない。
- (2) 自分のイメージを持つことやイメージを伝える力
- (3) 主体的に学びを深める力

2 令和4年度の改善

- (1) 美術の学びに関わる経験値については時数に限りがあるため、日常的な展示に加え授業内容の精選を行った。
- (2) イメージを伝える力についてワークシートによるアイデアスケッチの工夫を行った。
- (3) 主体的に学びを深める力については生徒との対話を通しながらより深い造形活動につなげた。

3 実践研究

美術はGIGAタイム内の研究授業を設定していないため、昨年度の研究と今年度の流れを踏まえ実践研究を行った。

(1) 表現の活動

パッケージデザインを行った(写真1)。使う目的、使いやすさ、機能を考えデザインをし表現させた。教員と生徒との対話(写真2)により新たな発想を生み出すような働きかけもおこなった。新型コロナウイルス感染症対策として、授業終了後は生徒机を教員がアルコール消毒をしている。単元内容から、GIGA端末を必要としない学習活動である。

(2) 鑑賞の活動

生徒作品解説(写真3)を行いながら、作品のイメージや作風を伝えた。



(写真1)

パッケージデザイン



(写真2) 生徒との対話



(写真3) 生徒作品解説

4 成果

多様なパッケージデザインがあり、深く考え感じたことを表現できた。材料の特性も生かす作品となった。使いやすさや機能、美しさなどの調和を考えながら表現の構想を練っている様子を見とることができた。

5 課題

今後の課題は、造形的な見方・考え方を働かせ資質・能力を育成することである。

(造形的な見方・考え方)

感性や想像力を働かせ、対象や事象を、造形的な視点で捉え、自分としての意味や価値をつくりだすこと。

保健体育

1 令和3年度の課題

- (1) 使い方が環境に左右されてしまうことである。日差しが強い時など、外での使用が難しい時がある。
- (2) 撮影した動画について、思考・判断・表現の評価材料としての活用を研究する必要がある。

2 令和4年度の改善

- (1) 木陰を利用することや、雨天が予想される時は屋根の下にG I G A端末を置くなど場所の工夫をした。生徒が録画した動画をすぐに再生し確認させた。確認をすることで、技能の向上につながった。ただし、気温が低い日は電圧が必要であり充電機の消耗があった。
- (2) 話し合い活動が活発に行われる場の設定をすることで思考・判断・表現の評価材料となった。また、男女共習ならでは場の設定ともなった。

3 実践研究

(1) 単元名と目標

単元名を「マット運動」とし、技ができる楽しさや喜びを味わわせることを目標とした。(p.38 学習指導案掲載)

(2) 研究授業

体育館でG I G A端末の録画・再生機能を用いて、技の確認をさせ演技構成に向けた各自の技の練習を行わせた(写真1・2・3)。新型コロナウイルス感染症対策として可能な限り密を避けて行い、授業後の手洗い、うがい、アルコール消毒を行わせた。



(写真1) 研究授業



(写真2) 倒立を支える



(写真3)
前方倒立回転跳び

4 成果

保健体育の内、体育分野は運動を評価する唯一の分野である。G I G A端末を用いた録画・再生は、自らの演技等を客観的な視点で見ることにより改善点や改善方法を考え、思考を深めることにつながった。友人からアドバイスを受けることも改善につながった。

5 課題

今後の課題は、体育の見方・考え方を働かせ資質・能力を育成することである。

(体育の見方・考え方)

運動やスポーツを、その価値や特性に着目して、楽しさや喜びとともに体力の向上に果たす役割の視点から捉え、自己の適性等に応じた『する・みる・支える・知る』の多様な関り方と関連付けること。

技術・家庭

1 令和3年度の課題

実習への主体性向上を目指しG I G A端末を活用した効果的な演示方法

2 令和4年度の改善

(1) 演示をするにあたり、送信方法の確認を行った。

(2) 速度について、ピント調節速度と送信速度の確認を行った。

以上の2点により、演示を踏まえた主体的な取り組みに効果を発揮した。

3 実践研究

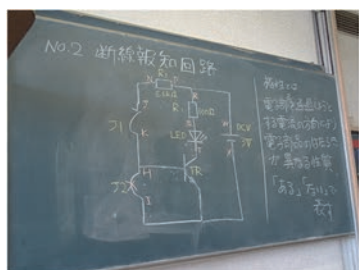
技術・家庭はG I G Aタイム内の研究授業を設定していないため、昨年度の研究と今年度の流れを踏まえ実践研究を行った。

(1) 材料と加工の技術

基盤を用いて発光ダイオード等を半田付けし、御自宅にあるものと同様の断線報知回路を作成させた。板書には「極性とは電子部品を通過しようとする電流の方向により電子部品の働きが異なる性質『ある』『ない』で表す。」と記すとともに回路図を図示した(写真1)。発行ダイオードは極性があるため、取り扱いに注意することや作業中の安全面についてポイント解説を行った(写真2)。完成した回路については、教卓に持参させニッパーで断線させることで発光ダイオードを点灯させ回路が正しいことを確認した(写真3)。単元内容から、G I G A端末を必要としない学習活動である。

(2) 情報の技術

御自宅では断線した場合ブザーがなるところ、発行ダイオードで代替している。生活に即した問題を基盤を加工することを通して、より身近な問題とした。新型コロナウイルス感染症対策として、授業終了後は生徒机を教員がアルコール消毒をしている。



(写真1) 断線報知回路



(写真2) ポイント説明



(写真3) ニッパーで断線させ発光ダイオードの点灯により回路確認

4 成果

生活や環境との関わりを踏まえて技術の概念を理解することにつながった。発光ダイオードという知的財産に触れることともなり、座学と実習から思考していることを見とることができた。

5 課題

今後の課題は、技術の見方・考え方を働かせ資質・能力を育成することである。

(技術の見方・考え方)

生活や社会における事象を、技術との関わり視点で捉え、社会からの要求、安全性、環境負荷や経済性等に着目して技術を最適化すること。

外国語（英語）

1 令和3年度の課題

- (1) 音声出力機能が低いことから、ヒアリングがしづらい。
- (2) G I G A 端末の出し入れに時間がかかり、十分な英会話時間を確保できなくなった。

2 令和4年度の改善

- (1) デジタル教科書や教師の発音により音声出力機能に頼らない授業展開とした。
- (2) リアテンドを使用し、テストの時間短縮を行い、英会話時間の確保に努めた。

3 実践研究

(1) 単元名と目標

単元名を「Lesson 7 Get Part 2 (新出文法事項：過去進行形)」とし、G I G A 端末を活用し、正しい発音を身につけ、音読することができることを目標とした。

(p.39 学習指導略案掲載)

(2) 研究授業

T e a m s 内の「Reading Progress」というアプリケーションを活用する。市内中学校教育研究会で本アプリケーションがあることを知り、研究授業で発音練習の検証を行った。英語は横書きであり、投影しても本文を全て表示できる(写真1)。本文の音読練習(写真1)を経て、ペアで役割読み(pair reading)を行う。最後に「Reading Progress」に表示されている英文を読みながら(写真2)、採点結果(写真3)により到達度を知る。



(写真1) 研究授業



(写真2) T e a m s の ReadingProgress 使用



(写真3) Reading Progress 採点結果(正答率と誤発音の表示)

4 成果

「Reading Progress」の活用により発音を客観的に見直すことができ、改善につながり思考を深めることにつながった。透過光と反射光の両方を用いることが思考の深まりに必要である。英語らしい発音をすると「Reading Progress」は誤発音と判定するため、文章よりは単語の確認として向いていると言える。

5 課題

今後の課題は、外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ資質・能力を育成することである。

(外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方)

外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、目的・場面・状況等に応じて、情報や自分の考えなどを形成、整理、再構築すること。

特別支援学級

1 令和3年度の課題

「GIGA端末を操作すること」と「話をきくこと」の切り替えが困難な生徒がおり、生徒1人1人のニーズに合った支援の在り方が必要だった。

2 令和4年度の改善

生徒がGIGA端末を活用する時間と全体に掲示する時間を分けた。指示を聞くときはタブレットを伏せて置かせ、指示に注目させる配慮を行った。

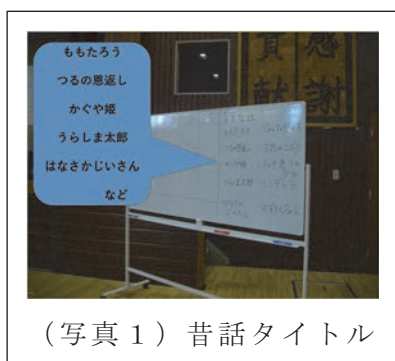
3 実践研究

(1) 単元名と目標

単元名を「表現活動（ワークショップ）」とし、昔話の有名なお話から、言葉を用いずに動きだけで伝えることを目標とした。(p.40 学習指導略案掲載)

(2) 研究授業

あらかじめ昔話の有名なお話のタイトルのみをホワイトボードに記入しておく（写真1）。教員から説明を受け（写真2）各グループごとに、昔話の伝わりやすい場面を相談し、演技をつくっていく。教員は撮影するのみとし、劇の再生（写真3）後、どの昔話だったかを各グループから発表させる。



(写真1) 昔話タイトル



(写真2) 研究授業



(写真3) 劇の再生

4 成果

GIGA端末で撮影した映像を見ることで、客観的に自らを振り返ることができ、表現するまでのプロセスを自ら評価することが可能となった。また、撮影にあたりグループ内でコミュニケーションを取ることから思考を深めることを見とることができた。

特別支援学級で使用しているiPadは直感的であり、生徒にとって扱いやすいGIGA端末となっていることも改めてわかった。

5 課題

今後の課題は、障害に向き合い自己理解を深めることである。自立を通して自己実現を目指すこととなる。自立活動は特別支援学級学習指導要領にあり、6区分27項目に分類されている。6区分とは 1 健康の保持 2 心理的な安定 3 人間関係の形成 4 環境の把握 5 身体の動き 6 コミュニケーションである。

(自立活動 目標)

生徒が自立を目指し、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養い、もって心身の調和的発達の基盤を培う。

4 成果

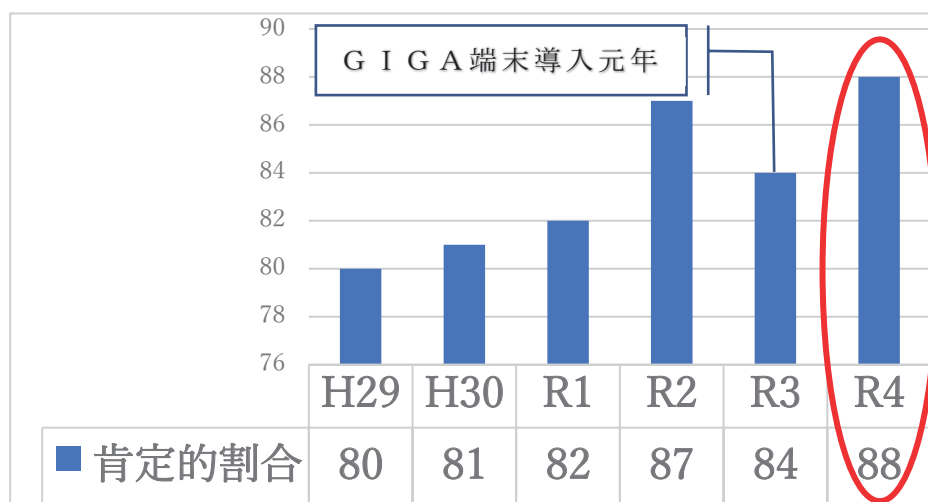
(1) 生徒の変容

G I G A 端末を用いながら、生徒の思考について各教科を通して見てきた。生徒はどのように感じていたのかについて学校評価アンケート結果から検証する。

学校評価アンケートは4件法を取っている。A：とてもそう思う。B：どちらかといえばそう思う。C：どちらかといえばそう思わない。D：そう思わない。である。AとBを肯定的割合とする。

質問項目「授業（習熟度別少人数授業も含みます）が分かりやすく、楽しいと思いますか。」を見るとG I G A 端末導入元年では、使用方法の複雑さなどからポイントを下げている。しかし、令和4年度の肯定的割合は88ポイント、6年間で最も高いポイントとなった（表1）。生徒はG I G A 端末を効果的な道具として使用できるようになったことの一端を示している。

また、学校評価アンケート質問項目「教科の学習や学級活動、委員会活動、行事等に対する評価が意欲向上につながっていますか。」では、生徒肯定的割合が令和4年度7月86ポイント、12月89ポイントと向上した。G I G A 端末を用いながら他の教育活動にも肯定的な関与をしたといえる。

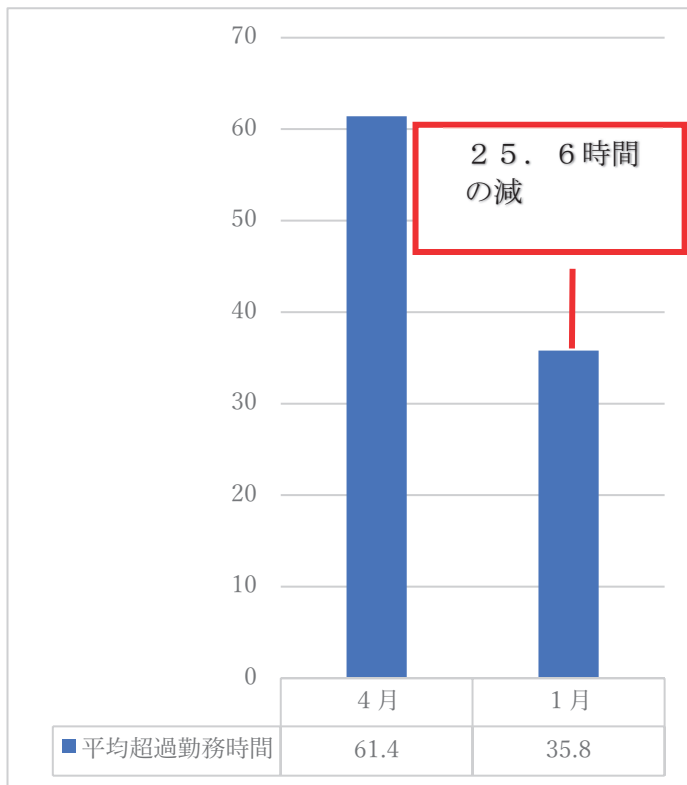


(表1) 学校評価アンケート (H29～R4)

「授業（習熟度別少人数授業も含みます）が分かりやすく、楽しいと思いますか。」

(2) 学校の働き方改革

月の平均超過勤務時間についても検証する。年度当初の4月は61.4時間だったところ、学期はじめの忙しい1月であるにも関わらず35.8時間となり25.6時間の減となった（表2）。これは、研究をしながら、コミュニケーションが多くなったことと関係する。授業のこと、行事のこと、学級のこと、部活動のことなど話をすることで見通しが立ち計画を立てられるようになり、組織力の向上につながったといえる。研究協議会の様子を掲載したが、安心して話すことができる同僚性の高い職場になったといえる（写真1・2）。月間平均45時間未満を達成することができた。



(表2) 平均超過勤務時間の比較



(写真1) 研究協議会 (全体)



(写真2) 研究協議会 (グループ)

(3) G I G A 端末

通常の学級は L e n o v o、特別支援学級は i P a d を使用している。直感的に使用できるのは i P a d であり、特別支援学級生徒にとって、使い勝手が良いものとなっていることも確認できた。(写真3)

(4) メモの方法

思考の見える化は生徒だけではない。教員にとってもそうであり、見える化させるために各自が工夫をした。このことは副次的な成果である。

ア 付箋紙 (張り替えることができ、色・形・張る場所等について工夫あり)

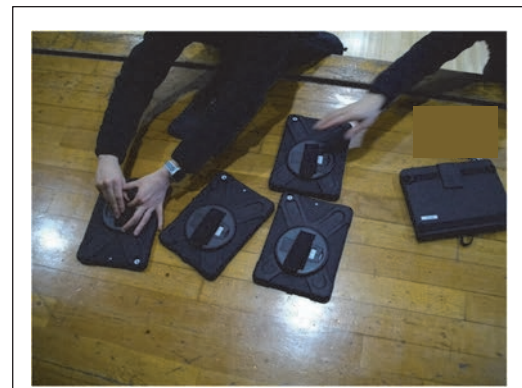
イ 週ごとの指導計画 (電源がなくともすぐに使用でき、授業の進度も同時に把握可)

ウ 手帳・ノート (コンパクトであり使い勝手が良い)

エ スマートフォン (データの検索等をしながら計画を立てるのに良い)

オ 電子メモパッド (インクや消しゴムを必要とせずわずらわしさが無い)

本校の場合、アからオに集約される。これらも反射光と透過光の併用といえる。メモの方法において工夫があった。



(写真3) G I G A 端末

左: i P a d (特別支援学級)

右: L e n o v o (通常の学級)

5 課題

課題は2点「見方・考え方 / 自立・自己理解」、「評価・評定」である。

(1) 見方・考え方 / 自立・自己理解

教科においては見方・考え方の習得である。学習指導要領を作成する時にまとめられた見方・考え方は16あり、これらをいかに習得させるかである。本紀要の各教科のページには、関係する見方・考え方のみを課題として掲載した。掲載した以外に7つの見方・考え方がある。

- ・ 社会的事象の地理的な見方・考え方
- ・ 社会的事象の歴史的な見方・考え方
- ・ 保健の見方・考え方
- ・ 生活の営みに係る見方・考え方
- ・ 道徳科における見方・考え方
- ・ 探究的な見方・考え方
- ・ 集団や社会の形成者としての見方・考え方

特別支援教育としては自立・自己理解である。自立活動は特別支援学校学習指導要領にあり、6区分27項目に分類されている。障害に向き合い自己理解を深めさせることとなる。

1 健康の保持

- (1) 生活のリズムや生活習慣の形成に関すること。
- (2) 病気の状態の理解と生活管理に関すること。
- (3) 身体各部の状態の理解と養護に関すること。
- (4) 障害の特性の理解と生活環境の調整に関すること。
- (5) 健康状態の維持・改善に関すること。

2 心理的な安定

- (1) 情緒の安定に関すること。
- (2) 状況の理解と変化への対応に関すること。
- (3) 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること。

3 人間関係の形成

- (1) 他者とのかかわりの基礎に関すること。
- (2) 他者の意図や感情の理解に関すること。
- (3) 自己の理解と行動の調整に関すること。
- (4) 集団への参加の基礎に関すること。

4 環境の把握

- (1) 保有する感覚の活用に関すること。
- (2) 感覚や認知の特性についての理解と対応に関すること。
- (3) 感覚の補助及び代行手段の活用に関すること。
- (4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関すること。
- (5) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関すること。

5 身体の動き

- (1) 姿勢と運動・動作の基本的技能に関する事。
- (2) 姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用に関する事。
- (3) 日常生活に必要な基本動作に関する事。
- (4) 身体の移動能力に関する事。
- (5) 作業に必要な動作と円滑な遂行に関する事。

6 コミュニケーション

- (1) コミュニケーションの基礎的能力に関する事。
- (2) 言語の受容と表出に関する事。
- (3) 言語の形成と活用に関する事。
- (4) コミュニケーション手段の選択と活用に関する事。
- (5) 状況に応じたコミュニケーションに関する事。

(2) 評価・評定

研究をしながら、評価・評定について都度、話題となった。学習指導要領では、教師、生徒共に「自己評価」を行い、教師は「授業改善」へ、生徒は「学習改善」を行うことが学習評価の目的であることが明確となった。生徒も「学習改善」を行うために「自己評価」と「相互評価」を行う。学習評価の最も大切なキーワードがこの4つであると記されている。現在の学習指導要領では、評価を「授業改善」に結びつけることが言われ、評価と「授業改善」の関連が明確になった。学習指導要領の評価の3観点の評価方法は次のように言われている。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ペーパーテスト ・パフォーマンス評価 ・実技テスト など	・ペーパーテスト ・作品評価 ・パフォーマンス評価など	・ポートフォリオ評価 ・ノート評価 ・自由記述評価 ・行動観察評価 など

これらの課題について、今後研鑽を深めていく必要がある。

最後に、特別の教科道徳解説から4文を掲載し、今後の研究の指針としたい。

「人間は、総体として弱さはあるが、それを乗り越え、次に向かっていくところにすばらしさがある。時として様々な誘惑に負け、やすきに流れることもあるが、誰もがもつ良心によって悩み、苦しみ、良心の責めと戦いながら、呵責に耐えきれない自分の存在を深く意識するようになる。こうした苦しみに打ち勝って、恥とは何か、誇りとは何かを知り、自分に誇りをもつことができたとき、人間として生きる喜びに気付くことができる。そして、人間として生きることへの喜びや人間の行為の美しさに気付いたとき、人間は強く、また、気高い存在になり得るのである。」(22よりよく生きる喜び 中学校学習指導要領(平成29年告示)解説特別の教科 道徳編)

6 資 料

- 學習指導略案
- 參考資料

国語科 GIGA 略案

1 単元名

単元名 書くこと

教科書 国語2 (光村図書)

教材名 魅力を効果的に伝えよう

日時: 令和4年11月24日6校時

対象: 2年3組

授業者: 前田 玲

2 単元の目標

魅力を効果的に伝える文章の書き方を説明できるようになる。

6 本時 (全2時間中の第1校時)

(1) 本時の目標

魅力を効果的に伝える方法を考えながら文章を書けるようになる。

(2) 本時の展開

時間	○学習内容・学習活動	指導上の留意点・配慮事項
導入	○本時の目標を確認する。 ・本時の流れを確認する。	○金閣寺の写真モニターに表示する。
展開	○「まなびポケット」から「スカイメニュー」→「発表ノート」を開く。 魅力を伝える文章を書くための材料を集めよう。 ・写真を見て、 特徴 ・ 感じたこと ・ 魅力 を挙げる。 ・完成した発表ノートをモニターに表示して共有する。 二〇〇字で鑑賞文を書いてみよう。 ○書き終わった鑑賞文を生徒同士で読み合う。 魅力が効果的に伝わる文章にはどんな特徴があるだろう。	○グループワーク機能を使用する。 ○特徴などを挙げた発表ノートや鑑賞文の書き方プリント、教科書などを参考に促す。
まとめ	○次の時間に、グループで協力して、より魅力が効果的に伝わる鑑賞文を書くことを伝える。	

この写真の魅力や特徴などを書き出そう



魅力が伝わる文章を書いてみよう

デジタル付箋紙

社会科(公民的分野)学習指導案

日時 令和4年10月6日(木)
 第6校時 14:30~15:20
 対象 第3学年3組30名
 学校名 東大和市立第五中学校
 授業者 教諭 荻原達矢
 会場 3年3組教室

1 単元名 第3章 私たちの暮らしと民主政治 1 民主主義と日本国憲法 (教育出版『中学社会公民』) 【C(2) 民主政治と政治参加】

2 単元の目標

- ・国会を中心とする我が国の民主主義の仕組みのあらましや政党の役割を理解し、議会制民主主義や選挙の意義、民主政治の推進と公正な世論の形成や国民の政治参加との関連について、国や地方公共団体の政治にかかわる様々な事象から課題を見だし、対立と合意、効率と公正などの視点から多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現できる。
- ・議会制民主主義の意義、多数決の原理とその運用の在り方について理解し、民主政治と政治参加について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わることができる。

3 単元の評価規準

観点	ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等	ウ 学びに向かう人間性
単元の評価規準	①国会を中心とする我が国の民主主義の仕組みのあらましや政党の役割を理解している。 ②議会制民主主義の意義、多数決の原理とその運用の在り方について理解している。	・議会制民主主義や選挙の意義、民主政治の推進と公正な世論の形成や国民の政治参加との関連について、国や地方公共団体の政治にかかわる様々な事象から課題を見だし、対立と合意、効率と公正などの視点から多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	・民主政治と政治参加について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。

4 指導観

(1) 単元観

本単元では、中学校学習指導要領 社会編 【公民的分野】の(2)C 民主政治と政治参加を踏まえて設定したものである。本単元では、我が国の民主主義の発展に寄与しようとする自覚を育成することを目的としている。そのためには、民主政治の推進と公正な世論の形成や選挙など国民の政治参加との関連について多面的・多角的に考察、構想し、表現することが求められている。これまでの公民の学習では、現代における社会の変化や対立と合意、効率と公正の考え方、日本国憲法の基本的原則をはじめ、憲法により保障されている基本的人権や憲法に基づく政治について学習している。本単元では、憲法の条文における政治の学習から、現代社会において行われている政治を学習する。現代社会の選挙の仕組みや政党の役割、世論の形成について学習をしていく中で生徒の政治に対する関心を高めるとともに、主権者であるという自覚を深め、主体的に政治に参画できるようにする。

(2) 生徒観

授業に真面目に取り組む学級で、授業中に騒いだり、ふざけたりすることはない。しかし、自分の意見を発表することに苦手意識をもっている大人しい生徒が多く、授業に真面目に取り組む一方で発言が少なく、受け身で

授業を受けている様子がある。グループワークを行っても、一部の生徒だけが発言をして話し合いが終わってしまうことも多々あり、意見を言うように声かけをしても、「〇〇さんと同じ意見です」と言って自分で考えることをしない生徒もいる。

そのため、本単元ではGIGA端末を用いて、個人で意見を出させ、それを班や学級で共有する。GIGA 端末を使用することで、自分の意見を書けていない生徒がすぐわかるため、教師側から助言やヒントを与えられる。また、GIGA 端末に書いた意見をモニターに映すことで、発言することが苦手な生徒の意見も班や学級で共有することができる。GIGA 端末を使用し一人ひとりが民主政治について多面的・多角的に考察、構想し、全体で表現することで、主権者であるという自覚を深め、主体的に政治に参画できるようになると考える。

5 単元(題材)の指導計画と評価規準(4時間扱い)

時	学習活動・学習内容	学習活動に即した具体的な評価規準[評価方法]
1	<p>○ヒトラーや戦前の日本などの例から権力が独占されることのデメリットを挙げ、その解決策を考える。</p> <p>○直接民主制と間接民主制の違いを理解し、それぞれのメリット、デメリットを考える。</p>	<p>【ウ】権力が独占されることのデメリットを考え、解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。[観察・ワークシート]</p> <p>【ア②】議会制民主主義の意義、多数決の原理とその運用の在り方について理解している。[観察・ワークシート]</p>
2	<p>○小選挙区制と比例代表制のメリット・デメリットを挙げる。</p> <p>○小選挙区制と比例代表制のどちらの方がより民主的かを考える。</p>	<p>【イ】それぞれの選挙制度について考え、課題を見だし、対立と合意、効率と公正などの視点から多面的・多角的に考察、構成し、表現している。[観察・ワークシート]</p> <p>【ウ】民主政治と政治参加について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。[GIGA 端末・ワークシート]</p>
3 本 時	<p>○市長選の立候補者として、マニフェストを考える。</p> <p>○市民の声を参考にマニフェストを考え、選挙へ行く理由を民主政治の課題をふまえた上で説明する。</p>	<p>【ウ】民主政治と政治参加について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。[GIGA 端末・ワークシート]</p> <p>【イ】議会制民主主義や選挙の課題を見だし、対立と合意、効率と公正などの視点から多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。</p>
4	<p>○日本の主な政党を挙げる。</p> <p>○政党政治の形態を理解する。</p>	<p>【ウ】知っている日本の政党を答え、主体的に社会に関わろうとしている。[挙手・発言]</p> <p>【ア①】国会を中心とする我が国の民主主義の仕組みのあらましや政党の役割を理解している。[観察・ワークシート]</p>
5	<p>○第 26 回参議院議員総選挙の結果について、朝日新聞と読売新聞の記事を比べる。</p>	<p>【ウ】公正な世論の形成について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。[観察・ワークシート]</p>

6 本時の学習

(1)本時の目標

- ・マニフェストを考えることを通して、民主政治と政治参加について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わることができる。【ウ】
- ・市民の声を参考にマニフェストを考え、選挙に行く理由を議会制民主主義や選挙の課題をふまえ、対立と合意、効率と公正などの視点から多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現できる。【イ】

(2)本時の展開

	学習内容と学習活動	○指導上の留意点 ◆評価規準		
導入 5分	○生徒会選挙などに立候補した経験のある人はどれくらいいるか聞く。	○投票者ではなく、立候補者という立場から選挙を考えることで新たな発見があることを伝え、生徒に興味をもたせる。		
	学習課題 マニフェストを考えることを通して、民主政治の課題をふまえ、選挙に行く理由を考える。			
展開 ① 20分	<p>発問① あなたが東大和市の市長選に立候補した場合、あなたがマニフェストとして提案する政策を1つ選べ。また、政策を実現するためにどの年齢層から税を多くとるか？</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;"> <p>政策(必要な費用)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 市内の小中学校のトイレを全て最新のものにする(3億円) 2 市内に新しい工場(菓子製造)を建設する(10億円) 3 保育園の増設(7億円) 4 環境にやさしい商品の開発研究(20億円) 5 50歳以上の市内スポーツ施設利用料無料化(5億円) 6 老人ホームの増設(8億円) </td> <td style="width: 50%;"> <p>税を多くとる年齢層</p> <ol style="list-style-type: none"> A 18歳以上～30歳未満 B 30歳以上～40歳未満 C 40歳以上～50歳未満 D 50歳以上～60歳未満 E 60歳以上 </td> </tr> </table>		<p>政策(必要な費用)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 市内の小中学校のトイレを全て最新のものにする(3億円) 2 市内に新しい工場(菓子製造)を建設する(10億円) 3 保育園の増設(7億円) 4 環境にやさしい商品の開発研究(20億円) 5 50歳以上の市内スポーツ施設利用料無料化(5億円) 6 老人ホームの増設(8億円) 	<p>税を多くとる年齢層</p> <ol style="list-style-type: none"> A 18歳以上～30歳未満 B 30歳以上～40歳未満 C 40歳以上～50歳未満 D 50歳以上～60歳未満 E 60歳以上
<p>政策(必要な費用)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 市内の小中学校のトイレを全て最新のものにする(3億円) 2 市内に新しい工場(菓子製造)を建設する(10億円) 3 保育園の増設(7億円) 4 環境にやさしい商品の開発研究(20億円) 5 50歳以上の市内スポーツ施設利用料無料化(5億円) 6 老人ホームの増設(8億円) 	<p>税を多くとる年齢層</p> <ol style="list-style-type: none"> A 18歳以上～30歳未満 B 30歳以上～40歳未満 C 40歳以上～50歳未満 D 50歳以上～60歳未満 E 60歳以上 			
	<p>【個人→小集団(班)→学級全体】</p> <p>○GIGA 端末を使用し Forms に自分の意見を書かせる(個人)</p> <p>○それぞれの意見をスクリーンに投影し、班や学級で意見を共有する。</p> <p>○班中でそれぞれのマニフェストを発表し(1分)、班の中で当選者を選ぶ。</p>	<p>◆マニフェストを考えることを通して、民主政治と政治参加について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。</p> <p>【ウ】【GIGA 端末・ワークシート】</p> <p>○1分間の発表ができない生徒には、班内で質問をさせるなどして、班活動が盛り上がるようにする。</p>		
展開 ② 15分	<p>発問② 市民の声を参考に、もう一度あなたが東大和市の市長選に立候補した場合、あなたがマニフェストとして提案する政策を1つ選べ。また、政策を実現するためにどの年齢層から税を多くとるか？</p>			
	<p>【小集団(班)→学級全体】</p> <p>○班で相談させ、1つのマニフェストを考えさせる。</p>	<p>○市民の声を参考にし、マニフェストを作成することで、選挙という多数決の場では、投票率や総投票数が高い層ほど優遇される投票率や総投票数が低い層を犠牲にされてしまうことに気づかせる。</p>		

	○市民の声			
	年齢 ^②	人数 ^②	投票率 ^②	要望 ^②
	18歳 ^② 未満 ^②	1万人 ^②	投票権 ^② なし ^②	市内の学校のトイレを全て最新のものにしてほしい ^②
	18歳以上 ^② ～ 30歳未満 ^②	8千人 ^②	30% ^②	市内に工場を建てて、雇用を増やしてほしい ^②
	30歳以上 ^② ～ 40歳未満 ^②	1万人 ^②	40% ^②	保育園を増やして、待機児童をなくしてほしい ^②
	40歳以上 ^② ～ 50歳未満 ^②	1万 ^② 2千人 ^②	50% ^②	環境に優しい商品の開発研究をしてほしい ^②
	50歳以上 ^② ～ 60歳未満 ^②	1万 ^② 2千人 ^②	60% ^②	50歳以上は市内スポーツ施設を無料で利用できるようにしてほしい ^②
	60歳以上 ^②	3万人 ^②	70% ^②	老人ホームを増やして、安心した老後を過ごせるようにしてほしい ^②
ま と め	<p>まとめ 小学生から「なぜ、選挙に行くべきなの？」と質問されたら、どのように答えるか？ 民主政治における多数決の課題をふまえた上で、小学生でもわかるように簡単に説明せよ</p>			
	1 0 分	【個人→学級全体】	<p>◆市民の声を参考にマニフェストを考え、選挙に行く理由を議会制民主主義や選挙の課題をふまえ、対立と合意、効率と公正などの視点から多面的・多角的に考察、構成し、表現している。【イ】〔観察・ワークシート〕</p>	

(3)本時の授業実践の視点

①教師の指導方法

- ・発問を考える際に端末は有効に活用できていたか。
- ・意見を学級全体で共有する際に端末は有効に活用できていたか。
- ・資料は有効に活用できていたか。

②生徒の変容

- ・話し合い活動で生徒同士が意見交換できていたか。
- ・話し合い活動の中で端末を使用し生徒同士での学び合いなどがみられていたか。
- ・話し合い活動で主体的・対話的で深い学びはあったか。

(4)その他

- ・大声での会話やマスクを外して会話をさせない。

7 板書計画

選挙シミュレーションゲーム																															
市民の声を参考に作られたマニフェスト																															
1班	2班	3班																													
4班	5班	6班																													
			<table border="1"> <thead> <tr> <th>年齢^②</th> <th>人数^②</th> <th>投票率^②</th> <th>要望^②</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>18歳^② 未満^②</td> <td>1万人^②</td> <td>投票権^② なし^②</td> <td>市内の学校のトイレを全て最新のものにしてほしい^②</td> </tr> <tr> <td>18歳以上^②～ 30歳未満^②</td> <td>8千人^②</td> <td>30%^②</td> <td>市内に工場を建てて、雇用を増やしてほしい^②</td> </tr> <tr> <td>30歳以上^②～ 40歳未満^②</td> <td>1万人^②</td> <td>40%^②</td> <td>保育園を増やして、待機児童をなくしてほしい^②</td> </tr> <tr> <td>40歳以上^②～ 50歳未満^②</td> <td>1万^② 2千人^②</td> <td>50%^②</td> <td>環境に優しい商品の開発研究をしてほしい^②</td> </tr> <tr> <td>50歳以上^②～ 60歳未満^②</td> <td>1万^② 2千人^②</td> <td>60%^②</td> <td>50歳以上は市内スポーツ施設を無料で利用できるようにしてほしい^②</td> </tr> <tr> <td>60歳以上^②</td> <td>3万人^②</td> <td>70%^②</td> <td>老人ホームを増やして、安心した老後を過ごせるようにしてほしい^②</td> </tr> </tbody> </table>	年齢 ^②	人数 ^②	投票率 ^②	要望 ^②	18歳 ^② 未満 ^②	1万人 ^②	投票権 ^② なし ^②	市内の学校のトイレを全て最新のものにしてほしい ^②	18歳以上 ^② ～ 30歳未満 ^②	8千人 ^②	30% ^②	市内に工場を建てて、雇用を増やしてほしい ^②	30歳以上 ^② ～ 40歳未満 ^②	1万人 ^②	40% ^②	保育園を増やして、待機児童をなくしてほしい ^②	40歳以上 ^② ～ 50歳未満 ^②	1万 ^② 2千人 ^②	50% ^②	環境に優しい商品の開発研究をしてほしい ^②	50歳以上 ^② ～ 60歳未満 ^②	1万 ^② 2千人 ^②	60% ^②	50歳以上は市内スポーツ施設を無料で利用できるようにしてほしい ^②	60歳以上 ^②	3万人 ^②	70% ^②	老人ホームを増やして、安心した老後を過ごせるようにしてほしい ^②
年齢 ^②	人数 ^②	投票率 ^②	要望 ^②																												
18歳 ^② 未満 ^②	1万人 ^②	投票権 ^② なし ^②	市内の学校のトイレを全て最新のものにしてほしい ^②																												
18歳以上 ^② ～ 30歳未満 ^②	8千人 ^②	30% ^②	市内に工場を建てて、雇用を増やしてほしい ^②																												
30歳以上 ^② ～ 40歳未満 ^②	1万人 ^②	40% ^②	保育園を増やして、待機児童をなくしてほしい ^②																												
40歳以上 ^② ～ 50歳未満 ^②	1万 ^② 2千人 ^②	50% ^②	環境に優しい商品の開発研究をしてほしい ^②																												
50歳以上 ^② ～ 60歳未満 ^②	1万 ^② 2千人 ^②	60% ^②	50歳以上は市内スポーツ施設を無料で利用できるようにしてほしい ^②																												
60歳以上 ^②	3万人 ^②	70% ^②	老人ホームを増やして、安心した老後を過ごせるようにしてほしい ^②																												
			<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> プロジェクターで映す </div>																												

選挙シミュレーションゲーム

本時のねらい 選挙のシミュレーションゲームを通して、政治参加について考える

問1 あなたが東大和市の市長選に立候補した場合、あなたがマニフェストとして提案する政策を1～6の中から1つ選べ。

あなたが選んだ政策を実現するためには、税金を増税して資金を調達しなければならない。どの年齢層から税を多くとるか？A～Eの中から1つ選べ。

○政策(必要な費用)

- 1 市内の小中学校のトイレを全て最新のものにする(3億円)
- 2 市内に新しい工場(菓子製造)を建設する(10億円)
- 3 保育園の増設(7億円)
- 4 環境にやさしい商品の開発研究(20億円)
- 5 50歳以上の市内スポーツ施設利用料無料化(5億円)
- 6 老人ホームの増設(8億円)

政策

○税を多くとる年齢層

- A 18歳以上～30歳未満
- B 30歳以上～40歳未満
- C 40歳以上～50歳未満
- D 50歳以上～60歳未満
- E 60歳以上

税を多くとる年齢層

問2 そのように考えた理由

市民の声

年齢	人数	投票率	要望
18歳未満	1万人	投票権なし	市内の学校のトイレを全て最新のものにしてほしい
18歳以上～30歳未満	8千人	30%	市内に工場を建てて、雇用を増やしてほしい
30歳以上～40歳未満	1万人	40%	保育園を増やして、待機児童をなくしてほしい
40歳以上～50歳未満	1万2千人	50%	環境に優しい商品の開発研究をしてほしい
50歳以上～60歳未満	1万2千人	60%	50歳以上は市内スポーツ施設を無料で利用できるようにしてほしい
60歳以上	3万人	70%	老人ホームを増やして、安心した老後を過ごせるようにしてほしい

問3 市民の声を参考に、もう一度あなたが東大和市の市長選に立候補した場合、あなたがマニフェストとして提案する政策を1～6の中から1つ選べ。

あなたが選んだ政策を実現するためには、税金を増税して資金を調達しなければならない。どの年齢層から税を多くとるか？A～Eの中から1つ選べ。

政策	税を多くとる年齢層

問4 そのように考えた理由

公民 研究授業 まとめ

問5 小学生から「なぜ、選挙に行くべきなの？」と質問されたら、どのように答えるか？
民主政治における多数決の課題をふまえた上で、小学生でもわかるように簡単に説明せよ。

_____組_____番 名前_____

公民 研究授業 まとめ

問5 小学生から「なぜ、選挙に行くべきなの？」と質問されたら、どのように答えるか？
民主政治における多数決の課題をふまえた上で、小学生でもわかるように簡単に説明せよ。

_____組_____番 名前_____

選挙



東大和市長になろう！！



選挙シミュレーションゲーム

本時のねらい

選挙のシミュレーションゲームを通して、政治参加について考える

問1

あなたが東大和市の市長選に立候補した場合、あなたがマニフェストとして提案する政策を1つ選べ。

どの年齢層から税を多くとるか？

問2

そのように考えた理由を答えよ

- 1 市内の小中学校のトイレを全て最新のものにする (3億円)
- 2 市内に新しい工場(菓子製造)を建設する (10億円)
- 3 保育園の増設 (7億円)
- 4 環境にやさしい商品の開発研究 (20億円)
- 5 50歳以上の市内スポーツ施設利用料無料化 (5億円)
- 6 老人ホームの増設 (8億円)

- A 18歳以上～30歳未満
- B 30歳以上～40歳未満
- C 40歳以上～50歳未満
- D 50歳以上～60歳未満
- E 60歳以上

年齢	人数	投票率	要望
18歳未満	1万人	投票権なし	市内の学校のトイレを全て最新のものにしてほしい
18歳以上～30歳未満	8千人	30%	市内に工場を建てて、雇用を増やしてほしい
30歳以上～40歳未満	1万人	40%	保育園を増やして、待機児童をなくしてほしい
40歳以上～50歳未満	1万	50%	環境に優しい商品の開発研究をしてほしい
50歳以上～60歳未満	2千人	60%	50歳以上は市内スポーツ施設を無料で利用できるようにしてほしい
60歳以上	3万人	70%	老人ホームを増やして、安心した老後を過ごせるようにしてほしい

問3

市民の声を参考に、もう一度あなたが東大和市の市長選に立候補した場合、あなたがマニフェストとして提案する政策を1つ選べ。

どの年齢層から税を多くとるか？

問4

そのように考えたのはなぜか？

- 1 市内の小中学校のトイレを全て最新のものにする (3億円)
- 2 市内に新しい工場(菓子製造)を建設する (10億円)
- 3 保育園の増設 (7億円)
- 4 環境にやさしい商品の開発研究 (20億円)
- 5 50歳以上の市内スポーツ施設利用料無料化 (5億円)
- 6 老人ホームの増設 (8億円)

年齢	人数	投票率	要望
18歳未満	1万人	投票権なし	市内の学校のトイレを全て最新のものにしてほしい
18歳以上～30歳未満	8千人	30%	市内に工場を建てて、雇用を増やしてほしい
30歳以上～40歳未満	1万人	40%	保育園を増やして、待機児童をなくしてほしい
40歳以上～50歳未満	1万	50%	環境に優しい商品の開発研究をしてほしい
50歳以上～60歳未満	2千人	60%	50歳以上は市内スポーツ施設を無料で利用できるようにしてほしい
60歳以上	3万人	70%	老人ホームを増やして、安心した老後を過ごせるようにしてほしい

- A 18歳以上～30歳未満
- B 30歳以上～40歳未満
- C 40歳以上～50歳未満
- D 50歳以上～60歳未満
- E 60歳以上

問5

小学生から「なぜ、選挙に行くべきなの？」と質問されたら、どのように答えるか？

民主政治における多数決の課題をふまえた上で、小学生でもわかるように簡単に説明せよ。

本時のねらい

選挙のシミュレーションゲームを通して、政治参加について考える

数学科指導略案

日時：令和4年10月6日（木）

2年1組標準クラス 鳥井 美保子

2年3組標準クラス 内藤 里奈

1組3組基礎クラス 安田 浩三

1 単元名 第3章 1次関数のグラフ

2 本時の展開（4/20）1次関数のグラフの特徴を調べてみよう。

3 単元の目標 ①いろいろな関数に触れること。【主体的に取り組む態度】

②一次関数のグラフの特徴をとらえること。【思考・判断・表現】

③変域を理解すること【知識・技能】

数式を入力してグラフを書こう。（端末利用2/2）

1/2時間目 GRAPE Sの使い方に慣れよう。

※式を入力して、グラフを書こう。スクリーンショットをして学びポケット提出箱に提出しよう。スクショの仕方はWindowsボタンを押しながら、PrtScです。

1枚目（関数）

① $y = 2x$

⑤ $y = 3x + 2$

② $y = -3x$

⑥ $y = -2x - 2$

③ $y = \frac{8}{x}$

⑦ $y = 2x^2$

④ $y = -\frac{6}{x}$

⑧ $y = -3x^2 + 3x + 1$

2枚目（関係式）

⑨ $x^2 + y^2 = 1$

⑩ $\frac{x^2}{5^2} + \frac{y^2}{4^2} = 1$

3枚目（関係式）

⑪ $(x^2 + y^2 - 1)^3 - x^2y^3 = 0$

⑫ $r = 1 + \cos 3\theta$

4枚目（関係式）

⑬ $r = \cos \frac{7}{8}\theta$

⑭ $y = \sqrt{|\sin x|} + \sqrt{|\cos x|}$

$y = \sqrt{|\sin x|} - \sqrt{|\cos x|}$

5枚目（関数）

$f(x) = x^4 - x^2 + 6 \quad (|x| \leq 1)$

$f(x) = \frac{12}{|x| + 1} \quad (|x| > 1)$

$g(x) = \frac{1}{2} \cos(2\pi x) + \frac{7}{2} \quad (|x| \leq 2)$

2/2 時間目（本時）ハートをグラフで書いてみよう。

本時の展開

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	学習活動に即した具体的な評価規準
導入 7分	前回の確認 富士山の関数の説明 特に変域に注目させる。	モニターにGRAPE Sで作った富士山のグ ラフを出し確認。	
展開1 15分	ワークシートと同じように 式を入力しグラフをスク リーンショットして、提出さ せる。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px; text-align: center;">ハートをグラフで書いてみよう</div> 前回できていなかった 生徒に配慮する。	時間内に提出できる かどうか。【主体的 に取り組む態度】
展開2 15分	特徴をワークシートに書か せる。	既習事項の用語を使わ せる。（変化の割合、 傾き、切片）	式とグラフを連動さ せて特徴を捉えられ ているかどうか 【思考・判断・表現】
まとめ 18分	発表	大事なところは補足を 加える。必要に応じて 板書やワークシートに 記入させる。	



いろいろな関数のグラフをかいてみよう

教 3年・高校

1/2時間目 GRAPESの使い方に慣れよう。

※式を入力して、グラフを書こう。スクリーンショットをして学びポケット提出箱に提出しよう。スクショの仕方はWindowsボタンを押しながら、PrtScです。

1枚目 (関数)

① $y = 2x$

⑤ $y = 3x + 2$

② $y = -3x$

⑥ $y = -2x - 2$

③ $y = \frac{8}{x}$

⑦ $y = 2x^2$

④ $y = -\frac{6}{x}$

⑧ $y = -3x^2 + 3x + 1$

2枚目 (関係式)

⑨ $x^2 + y^2 = 1$

⑩ $\frac{x^2}{5^2} + \frac{y^2}{4^2} = 1$

3枚目 (関係式)

⑪ $(x^2 + y^2 - 1)^3 - x^2y^3 = 0$

⑫ $r = 1 + \cos 3\theta$

4枚目 (関係式)

⑬ $r = 1 + \cos 5\theta$

⑭ $y = \sqrt{|\sin x|} + \sqrt{|\cos x|}$
 $y = \sqrt{|\sin x|} - \sqrt{|\cos x|}$

5枚目

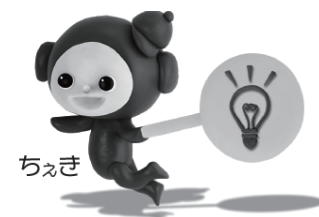
$f(x) = x^4 - x^2 + 6 \quad (|x| \leq 1)$

$f(x) = \frac{12}{|x| + 1} \quad (|x| > 1)$

$g(x) = \frac{1}{2} \cos(2\pi x) + \frac{7}{2} \quad (|x| \leq 2)$

【理解度】 [A B C]

今日の授業を
ふりかえろう!



ハートをグラフで書いてみよう

教 p. 62~74

①~⑫を入力してハートを完成させよう。⑪⑫は1年の時に習った式が入ります。
終わった人からスクリーンショットして提出してください。

① $y = 11$ ($-5 \leq x \leq -2$)

⑦ $y = 3x + 28$ ($-7 \leq x \leq -6$)

② $y = 11$ ($2 \leq x \leq 5$)

⑧ $y = -3x + 28$ ($6 \leq x \leq 7$)

③ $y = -x + 9$ ($-2 \leq x \leq 0$)

⑨ $y = -3x - 14$ ($-7 \leq x \leq -6$)

④ $y = x + 9$ ($0 \leq x \leq 2$)

⑩ $y = 3x - 14$ ($6 \leq x \leq 7$)

⑤ $y = x + 16$ ($-6 \leq x \leq -5$)

⑪ $y =$ ($-6 \leq x \leq 0$)

⑥ $y = -x + 16$ ($5 \leq x \leq 6$)

⑫ $y =$ ($0 \leq x \leq 6$)

◎ グラフの特徴を捉えよう。変化の割合、傾き、切片という言葉を使って書きましょう。

【自分の考え】

【ほかの人の考え】

【共通しているところ、ちがうところ】

授業の内容を
まとめよう!



学習指導案略案

令和4年9月7日(木)

6校時 学級 2年 2組

教科名 : 理科
指導者名 : 千葉 広高

1 小単元名(題材名)

原子

2 本時のねらい

(1) 化学反応式のつくり方を理解する。【科学的思考】

3 本時の指導 例

過程	・学習活動	○指導上の留意点 ■評価方法
導入	・鉛筆と消しゴムのセットの組み合わせを変えたとえで、化学反応式の考え方につなげる	○teamsからワード文章をダウンロードさせる。
展開	・分子の絵をワード上で動かして、化学反応式を作る ・分からない生徒は教え合って理解する。	○分子は余ったりしないようにする。 ○分子は最小限の数で化学反応式を作る ■パソコン上で化学反応式を何個作ることができたか【科学的思考】
まとめ	・化学反応式は右辺と左辺で原子の数が同じになるようにする。 ・次回は自分で分子を書き、化学反応式を完成させていく。	○右辺と左辺の原子の数を数えて、同じであることを確認する。

4 使用する教材

教科書 GIGA 端末

保 健 体 育 科 (体 育) 学 習 指 導 案

日 時 令和4年 11月10日 (木)
第6校時 14:30~15:20
対 象 第3学年 1組 29名
学 校 名 東大和市立第五中学校
授 業 者 教諭 大森彩愛 印
会 場 体育館

1 単元 (題材) 名

器械運動 「マット運動」

2 単元 (題材) の目標

(知識・技能)

技ができる楽しさや喜びを味わい、技の名称や行い方、運動観察の方法、体力の高め方などを理解するとともに、自己に適した技で演技する。

(思考・判断・表現)

自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができる。

(主体的に学習に取り組む態度)

マット運動に積極的に取り組むとともに、よい演技を讃えようとする、互いに助け合い教え合おうとする、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとする、事故防止に関する心得を遵守するなど健康・安全を確保することができる。

3 単元 (題材) の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考力・判断力・ 表現力	ウ 主体的に学習に取り組む態度
①技の名称や行い方などを理解することができる。(知識) ②自己観察や他者観察の方法が理解できる。(知識) ③技と関連させた補助運動や練習を取り入れることで、体力が向上するということができることを理解する。(技能) ④「はじめ—なか—おわり」に用いる技を構成し、演技ができる。(技能)	①技や演技の改善についてのポイントや課題を発見し、解決できるよう知識を活用したり、応用している。(観察) ②自己や仲間の課題について、思考し判断したことを言葉や文章で表したり、他者に伝えている。(学習カード、観察)	①マット運動に粘り強く取り組むことができる。(観察) ②仲間の技のよい動きやよい演技を讃え、動きの様子や課題を伝え合っている。(観察) ③練習場所の安全を確認しながら、自己の体調や体力に応じた段階的な練習をしている。(観察)

4 指導観

(1) 単元観

器械運動は「マット運動」「鉄棒運動」「平均台運動」「跳び箱運動」などから構成され、器械の特性に応じて多くの「技」がある。

対象の中学3年生では、技ができる楽しさや喜びを味わい、その技がよりよくできるようにする。また、器械運動の学習に積極的に取り組み、よい演技を認めることなどに意欲をもち、健康や安全に気を配るとともに、技の行い方や練習の仕方などを理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにすることが大切である。

(2) 生徒観

器械運動に苦手意識を抱いている生徒が多く在籍している。また、運動自体に後ろ向きな生徒も多く、授業に積極的に取り組めない傾向がある。一方で、運動部に加入していた生徒や運動が好きな生徒も在籍しているため、バランスをとることが求められる。東京都の体力調査の結果から、「長座体前屈」が低い傾向。毎授業で柔軟や筋力トレーニングを積極的に取り入れ、自身の体を支えるという感覚を身に付けさせる。

一つひとつの技の完成度を上げるためにICTを活用し、自身の技の出来を確認させる。前方倒立回転への挑戦などレベルに応じた課題を用意し、自分の課題にあった取り組みを実施させる。

(3) 指導観

器械運動の特性やルールなどの知識の定着及び技能の向上や発表会の楽しさを感じられるような授業展開を心がける。基本的な技に加え、応用的な技の習得を目指す。「できる」という経験や感覚を感じさせるために、学びあいやICTを活用し、基本的、応用的な技の習得を図る。

また、男女共習を生かし、マット運動が得意な女子生徒の師範や簡単な発表会を行うことで、楽しみながら器械運動の授業が展開できるようにする。

5 単元（題材）の指導計画と評価計画（全10時間）

	学習内容・学習活動	学習場面に即した具体的な評価規準
第1時	○オリエンテーション ○単元の流れ、授業の進め方の理解 ○技の練習 ・前転、開脚前転 ・後転、開脚後転 ・首はねおき	・ウ③（観察）
第2～5時	○技の確認 ◎検定 （ここでクリアしている技のみ演技に組み入れることができる） ・跳び前転 ・倒立、倒立前転	・ア①（筆記試験） ・ア②（観察） ・ア③（観察） ・イ①（観察） ・イ②（学習カード）

	<ul style="list-style-type: none"> ・伸膝後転 ・側方倒立回転 側方倒立回転跳び 1/4 ひねり ・前方倒立回転跳び ・伸膝前転、後転倒立 ・バランス技 <p>○PC を使用して動きの確認、比較、改善</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ウ①（観察） ・ウ②（観察）
第 6 ～ 8 時	<p>○演技構成、検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「はじめ—なか—おわり」の意識 ・自分に適している技の確認 ・つなぎの意識 <p>○PC を使用して動きの確認、比較、改善</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・イ②（学習カード） ・ウ②（観察）
第 9、10 時	<p>○発表会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価についての確認 ・動画を PC で撮影 	<ul style="list-style-type: none"> ・ア④（観察・単元テスト）

6 本時（全10時間中の第5時）

(1) 本時の目標

基本的な技である前転や後転の習得。倒立前転への挑戦。

自分に合ったレベルの技の練習を行う。ICTを活用し、グループ内で技の出来の確認や教え合いを行う。

(2) 本時の展開

	○学習内容・学習活動 指導上の留意点・配慮事項	評価規準 (評価方法)
導入 (10分)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 本時のねらいと流れの確認 ～基本的な技の習得、自分に合ったレベルの技を選択し、練習をする。 技の改善についてのポイントや課題を発見する。 </div> <p>○マット準備 ○整列、挨拶 ○準備運動（柔軟） ○本時の説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・整列、挨拶をきちんと行わせる。 ・ケガ防止のため各部位の運動をしっかりと行っているか確認する。 ・聞く姿勢をつくらせ、本時のねらいと流れを理解させる。 	
展開1 (5分)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 補強運動 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・首などのけがの防止、体力向上、集団行動の厳守のため、集中して取り組むよう声をかける。 <p>○腕立て伏せ（男子7回女子5回）、体幹（プランク） ○ゆりかご</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本ゆりかご ・バンザイゆりかご ・ゆりかごから背倒立 <p>ゆりかごは、脚と腕の大きな振り上げと振り下げによって、技の後に素早く起き上がれるように意識させる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 倒立前転 </div>	
展開2 (10分)	<p>○レベルに合わせた倒立前転への取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・補助あり、なし ・頭倒立から前転 ・エバーマット倒立 <p>*膝がふってこないよう、脚が倒れてきたタイミングであごを引く</p>	

<p>展開 3 (20 分)</p>	<p>ことを再確認する。 *倒立時の目線を意識させる。 *膝と腰を伸ばして行う。</p> <p style="text-align: center;">課題別練習</p> <p>○課題別練習（マット別）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演技構成に向けた各自の技の練習を行う。 (前転・後転・開脚系・側方倒立回転・ロンダート・伸膝後転・伸膝前転・倒立前転・前方倒立回転・後転倒立) ・マットごとに技を指定して行う。 ・演技の構成に向けて必要であればビデオ撮影をし合い、アドバイスをする。 ・演技については直立から始まり直立で終わること、終わりの姿勢について意識して練習をするよう声かけをする。 <p>○検定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・決められた技の中から自分で選択をし、検定を受ける。 ・この検定で合格をもらった技でしか演技構成をすることができない。 ・失敗をしても何度でもチャレンジできるものとし、主体的に練習に取り組む姿勢を養う。 	<p>ウ①（観察）</p>
<p>まとめ (5 分)</p>	<p style="text-align: center;">整列・健康観察</p> <p>○マット片付け</p> <p>○本時の振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ケガをした場合や具合が悪い場合は必ず申し出るように促す。 ・ケガや体調不良の生徒がいた場合は応急処置や保健室への同行をする。 <p>○次時の予告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次時の授業内容（「はじめ—なか—おわり」を意識した演技の構成）について、イメージできるように予告する。 <p>○挨拶</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正しい姿勢、大きな声で挨拶をさせる。 	<p>イ② (学習カードの記述は家庭学習とし、今日の授業での学びをカードに記述をさせ、提出をさせる。)</p>

(3) 感染予防対策

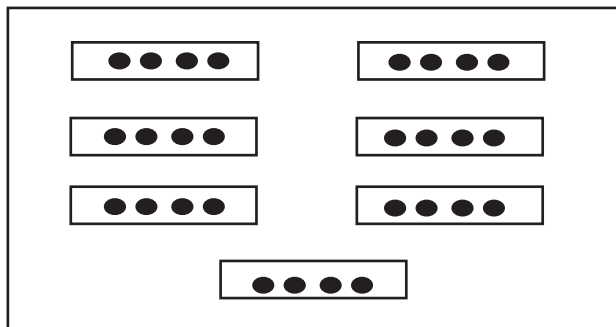
新型コロナウイルス感染症対策として可能なかぎり密を避けて行う。

授業後の手洗い、うがい、アルコール消毒を徹底させる。

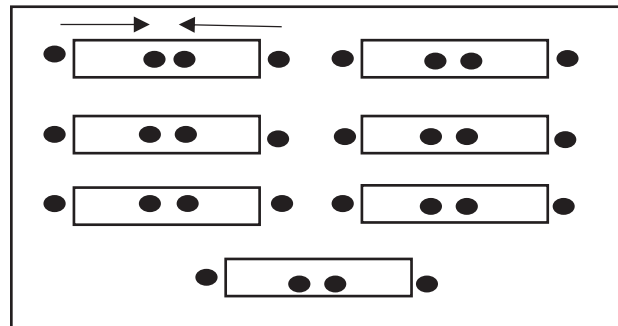
7 配置図

=マット
 =生徒

○柔軟

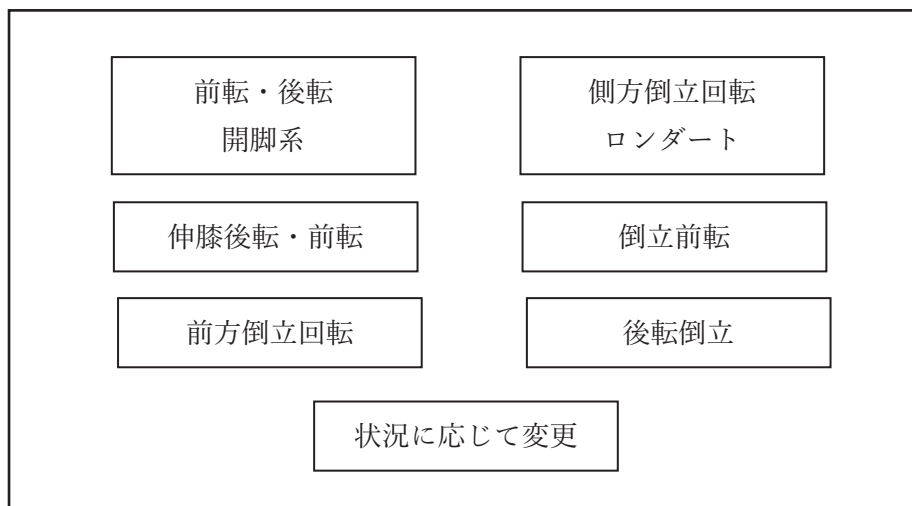


○倒立前転（2人1組）＜外側から内側＞



○課題別練習

※状況に応じてマットの位置、練習するマットの指定は変更をする。



※教員の立ち位置は決定せず、状況に応じて変更をする。

ただし、手や足の支えで回転をする「ほん転系」はとくに気を付けて指導を行う。

8 授業観察の視点

- (1) 生徒への目標設定は適切であったか。
- (2) 生徒への指示は適切であったか。
- (3) 生徒が安全に練習を行うための指導は適切であったか。

研究授業7 (簡易学習指導案)

令和5年1月26日(木曜日)6校時

授業者	佐藤 航	教科	外国語(英語)
学級	1年1・2組少人数	場所	3階1年2組教室
单元名	Lesson7 Get Part2 【新出文法事項:過去進行形】		

□本時のねらい

- ・GIGA端末を活用し、正しい発音を身につけ、音読することができる。
- ・Teams上で使えるアプリケーション「Reading Progress」を活用する。

□生徒の特性・課題

- ・英語の文章に対して自信を持って発音できる生徒は少ない。
- ・3年次でのスピーキングテストに向けて、ICTを活用し、自身の発音の特性を知り、積極的に英文を読む態度を養いたい。

□主な学習活動<学習の流れ・学習内容・授業改善(指導上の工夫)・評価等>

<導入および復習活動>

- ・3分リスニング(リスニング活動)、過去進行形の口頭練習

<展開>

- ・Reading Progressの結果を確認する
- ・教科書本文の音読練習
 - 音声に続いて1文ずつ読む(定着度に応じて、区切ったり、繰り返したりする)
 - 音声とぴったり合わせて読む【overlapping】→ペアで役割読み【pair reading】
 - ペアの片方が日本語を言って、英文で答える【Japanese → English】
 - 1人1文指名して読ませ、間違いがあれば訂正し全体練習する【individual】

<まとめ>

- ・Reading Progressで音読を録音し、課題を提出する(授業内または次の授業で結果を確認する)
- ・家庭学習の提示

□ICT活用の視点

- ・Teamsアプリケーション「Reading Progress(音読練習)」
- ・三省堂デジタル教科書(教師用)

特別支援学級 学習指導案

日 時 令和5年1月12日(木) 第6校時
 14:30~15:20
 対 象 1・2・3年7・8組 26名
 ※不登校生徒 3名
 学 校 名 東大和市立第五中学校
 授 業 者 教諭 鈴木 小春
 場 所 体育館

1 単元名 表現活動(ワークショップ)

2 単元の目標

・全身を使って表現して相手に伝えることができるようになる。

3 本時(全2時間中の2校時)

(1) 本時の目標: 全身を使って表現して相手に伝えることができるようになる。

(2) 本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意点・配慮事項	学習活動に即した具体的な評価規準
導入 5分	<p>ねらい: 動きだけで相手に伝わるように表現しよう!</p> <p>○挨拶</p> <p>○本時の説明 ・目標の確認 「動きだけで相手に伝わるように表現しよう!」</p>	<p>・座らせて静かな状態で聞かせる。</p> <p>・ICT機器などを使って視覚的にも目標を確認させる。</p> <p>動きだけで相手に伝わるように表現しよう!</p>	
展開1 20分	<p>○説明(5分) 「有名な話」のテーマから各グループごとに昔話を再現していく。言葉を使わず、動きだけの演技で伝えられるようにする。 ものがたりが伝わりやすい場面をグループで相談し演技を作っていく。演技は30秒~1分程度のものにする。 タブレットを活用して何度か撮影を行い、より伝わりやすい演技を選ぶ。</p> <p>○グループワーク (15分)</p>	<p>・劇は動きだけで表現する。</p> <p>・全員に役割がある劇にする。</p> <p>・タイマーを各グループに渡して時間を確認させる。</p> <p>・全員で制作する。(一人の意見で決めない)</p> <p>・劇を作るときの姿勢に気を付けさせる。</p> <p>・劇の練習、撮影を行う場所を指定する。(ICT機器の活用)</p> <p>・教員は劇の制作にアドバイスはせずに撮影を主に行っていく。 話のあらすじがずれたときなどは戻すためのアドバイスを する。</p>	<p>・仲間と協力して活動をしている。(観察)</p>

		発表	
展開 2 15分	<ul style="list-style-type: none"> ○発表 各グループ2回ずつ動画を流す。他のグループはメンバーと相談してホワイトボードに解答を書く。正解したチームの数で対決する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人の意見を書くのではなく、みんなで相談した意見を書く。 ・劇が終わったときは見ている人は拍手で終わる。 ・ポイントは当てたチームと、自分たちの演技を当ててもらったポイント数を加算して合計点で競う。 	
まとめ 5分	<ul style="list-style-type: none"> ○授業の振り返りを行う。 ○次回の予告 ○挨拶 	<ul style="list-style-type: none"> ・人に伝えるためにはどのようなことが大切なのか気づかせる。 ・授業内での良い点を挙げながら、振り返りを行う。 ・互いに生徒の意見を聞かせる。 ・服装を整えさせる。 ・大きな声で挨拶を行う。 	

※着替える時間を5分間確保する。

1班：4名 (岩崎先生)

2班：5名 (古川先生)

3班：4名 (齊藤先生)

4班：5名 (島先生)

5班：4名 (佐藤先生)

全 22名

○ 参考資料

(答申)

- ・「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）（中教審第197号）」平成28年12月21日 中央教育審議会

(学習指導要領)

- ・中学校学習指導要領（平成29年告示）
- ・中学校学習指導要領（平成29年告示）解説
- ・特別支援学校教育要領・学習指導要領解説総則編（幼稚部・小学部・中学部）
平成30年3月
- ・特別支援学校教育要領・学習指導要領解説自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）
平成30年3月

(本校の取り組み)

- ・「教育課程のリデザインによる更なる学力向上の取り組み」 令和2年2月 東大和市立第五中学校
- ・「1人1台のコンピュータなどのICTを効果的に活用した主体的・対話的で深い学びにつながる授業改善」 令和4年1月 東大和市立第五中学校

(働き方改善計画)

- ・「東大和市立学校における教員の働き方改善計画」平成31年3月東大和市教育委員会

(報告、通知)

- ・「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」平成31年1月21日 中央教育審議会 初等中等教育分科会 教育課程部会
- ・「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）」平成31年3月29日 30文科初第1845号

(評価)

- ・「評価規準の作成のための参考資料（中学校）」平成22年11月国立教育政策研究所 教育課程研究センター
- ・「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料」令和2年国立教育政策研究所 教育課程研究センター

東大和市教育課題研究指定校

主体的・対話的で深い学びをG I G A端末の活用を通して実現する指導の工夫～
生徒の思考のプロセスが見える化する授業づくり～

令和5年3月発行

編集・発行	東大和市立第五中学校
所在地	〒207-0033 東京都東大和市芋窪 5-1119
電話	042-561-0050
F A X	042-590-7032
ホームページ	https://5c.hyama.andteacher.jp



IMO-ZO コミュニティ・スクールでは第七小学校と第九小学校、第五中学校の3校が一体となって地域社会に貢献する児童・生徒を育みます。